# 閉塞性動脈硬化症をどう診療するか

松尾循環器科ｸﾘﾆｯｸ　松尾　汎

**【閉塞性動脈硬化症とは？】**

全身の動脈の内でも、手足（四肢）などへ血液を循環させているルートを「末梢動脈」と呼ぶ。その末梢動脈での、主に四肢の循環障害を来す代表的な疾患が閉塞性動脈硬化症（Arteriosclerosis obliterans; ASO）やバージャー病（Thromboangiitis obliterans; TAO）などである。ASOとは、主に脂肪からなる粥状物質が末梢動脈の動脈壁内側に沈着して「動脈硬化（粥状硬化）」を来し、それら末梢動脈内腔（血液が流れている腔）が狭くなって四肢に循環障害を起こした状態である。四肢の末梢循環障害は、始めは症状がなく、酷くなると自覚症状として手足の冷感、しびれ感、運動時の筋肉痛などが起こり、更にひどくなると組織が壊死を起こして手足に「壊疽・潰瘍」をきたし切断となることもある。循環障害が、より軽い内に見つけ出して対処することが大切である。

動脈硬化は、生活習慣病（生活習慣によって発症したり、ひどくなったりする病態を総称）と言われる高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙などによって生じる異常や病態であり、これら生活習慣病は「動脈硬化性危険因子」とも呼ばれる。動脈硬化は四肢にも起こるが、脳・頚動脈、冠動脈などの「他の全身の動脈」にも併せて生じることが多く、それら臓器の循環障害（脳梗塞などの脳血管障害、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、腎障害など）も併せて生じることが多いとも指摘されている。それ故に、ASOは「全身の動脈硬化性血管病変の一部分症」としても捉えられている。

この様に、ASOは「生活習慣病」と関連して起こる「四肢の末梢循環障害」であると同時に、全身の動脈の循環障害も起こりうる「全身の動脈硬化性疾患」としても考えられているので、その取り組みとしては、①四肢、特に下肢の循環障害への取り組みと共に、②全身の臓器障害（脳、心臓、腎臓など）への対応、更にそれらの原因となっている③動脈硬化性危険因子（生活習慣病）への対応も要請されることになる。

無断使用および転載禁止